

広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部 自己点検・評価実施報告書

＜平成21年度～平成23年度＞



広島大学大学院総合科学研究科・総合科学部評価委員会

はじめに

ここに、平成 21 年度から平成 23 年度にわたる大学院総合科学研究科・総合科学部の教育研究並びに管理運営業務に関する自己点検・評価実施報告書を公表することができ誠に喜ばしい限りである。3 年分の報告となったが、不断の自己点検を怠ってきたわけではなく、平成 20 年度まで、自己点検評価報告書を毎年作成していた。しかし、平成 21 年度に外部評価を受けた結果、従来の方式を改め、自己点検結果とそのエビデンス及び改善のための指針を対照できるようにすべきとの指摘を踏まえて、3 年間のタイムスパンで現状・その根拠となる資料、今後の方針を盛り込む等の方法で点検評価する方式によって改訂することとしたのである。

実際、過去 3 年間、実質的な点検・改革に取り組むことが先決であった。国立大学法人広島大学の第一期中期目標・中期計画が平成 21 年度に終了し、平成 22 年度から第二期中期目標・中期計画が始まった。平成 21 年には本研究科・学部についての外部評価が行われ、平成 18 年に創設された総合科学研究科の教育研究については理念・目的に沿って教育研究組織・活動面で概ね肯定的評価を受けた。他方、総合科学部については、大学院部局化、教育プログラム構築に伴う組織改編の過程で、10 の教育プログラム制を実施していることについて、学際・総合性の理念に照らして問題ではないかという原理的問題を突き付けられた。そこで、平成 23 年～平成 24 年にかけてプログラム再編のためのワーキングを設置し、2 年の議論を経て平成 25 年度から、創設以来一学科制を堅持してきた総合科学部の原点に還り、「総合科学プログラム」1 プログラム制を発足することになった。直近の 24 年度を取組は本報告書には反映されていないが、平成 21 年度～平成 23 年度にかけての改革のための前奏曲となる様々な取組は見て取れるはずである。

広島大学総合科学部は、昭和 49 年(1974 年)、学際・総合・創造性の旗印を掲げて創設され、全国に先駆けて文理融合型の学部教育を 40 年近く行ってきた。この学部教育を基礎に、平成 18 年(2006 年)には大学院総合科学研究科が始動し、21 世紀現代社会が直面する様々な複合的課題に取り組み、大学院教育における「総合科学」実践の学舎となることをめざして教育研究活動を推進してきた。全世界を震撼させた 3.11 東日本大震災と福島原発大事故に直面して、従来の学問間の壁を見直し、人文・社会・自然科学の対話と融合の重要性は益々増している。私たちは、自らの使命を自覚し、今後も新たな教育研究の推進に向けて邁進する所存である。

平成 25 年 4 月

広島大学大学院総合科学研究科長

広島大学総合科学部長

吉田光演

目 次

はじめに

第1章 総合科学研究科・総合科学部の設立・理念等

第1節 設立	1
第2節 理念	3
第3節 目標・計画	5

第2章 総合科学部における教育活動

第1節 学生の受入	23
第2節 教育の実施体制と成果	27
第3節 学生支援（留学・生活・就職など）	89

第3章 総合科学研究科における教育活動

第1節 学生の受入	93
第2節 教育の実施体制と成果	97
第3節 学生支援（留学・生活・就職など）	124

第4章 総合科学研究科における研究活動

第1節 21世紀科学プロジェクト群	127
第2節 領域	142

第5章 地域貢献・情報発信及び管理・運営

第1節 地域貢献・情報発信	151
第2節 管理・運営	155

あとがき	182
------	-----